

## リニア新時代に向けた中京大都市圏づくり勉強会 議事概要

- 商売や文化、芸術といった面白い部分が街に無くなり、住んでいるだけの街になると、担税力が下がって、結果として雇用や福祉も弱くなる。文化面ではすでに東京都名古屋区になっていて、十分危機感をもっておかなければならない。
- 名古屋が面白い地域になれば、東京から人が来てくれるので、リニア開業を空前のチャンスだと思ってまちづくりをしなければならない。広域でやることがあればやっていくべきだ。
- 産業が一番重要であり、更に高みに引き上げていくためには、国際展示場や日本版MIT (マサチューセッツ工科大学) が必要である。また、ノーベル物理学賞受賞者を多数輩出している名古屋大学を、世界の理系の憧れにしていくことや、首都機能移転については、臨時国会を名古屋で開催することが重要である。
- 世界的な傾向かもしれないが、最近、文明に対する批評が全然ない。リニア新幹線のような新しいものが、何の疑問や議論もなく受け入れられている。
- 中京大都市圏の新しい都市を本気で考えるなら、未来の人々が生きる空間づくりに、何らかの形で「よくやってくれたな」と思われるようにすべきである。
- 現在の名古屋駅にリニアの駅を付け足していくという発想は、新しい未来を構築するという考え方とは違うので、新しい未来の都市計画とリニアがリンクするように知恵を絞るべきだ。
- 大量に人を運び、飛行機よりも安全な新幹線が、人類の歴史に非常に大きな影響を与えたように、リニアも世界を変えていくという可能性を秘めている。
- リニア開業によって、思いもよらないような効果や、あるいは悪いことが起こる可能性があるが、社会への影響は、開業しなければわからない。

- 50年前に、東海道新幹線が開業したことにより変化したものを調べてみれば、将来リニアができたときの影響を考えるヒントになるかもしれない。
- 国は、国土形成計画の見直しの議論の中で、リニアによるメガリージョンをひとつの中心テーマとしている。東京一極集中ではなく、メガリージョンで大都市機能を牽引していくことが必要だが、在京の有識者は東京一極集中に対する問題意識が低い。
- この地域が、リニアにより東京と一体化したときに、首都機能のバックアップや本社機能の移転、海外企業の立地など、何を担っていくのかということをもとめて、積極的に提案していただきたい。
- メガリージョンには、国土強靱化が非常に重要。愛知と名古屋は、国土強靱化地域計画策定モデル調査の実施団体に選定されたが、5000年に一度の災害が来ても十分に機能できるまちづくりを、中部圏全体を視野に入れて議論してほしい。
- リニアの意義としては、大きな地震が懸念される東海、東南海、南海トラフのそばを通り、かつ、老朽化対策が必要な東海道新幹線のバックアップ、東京から大阪まで6,400万人の一体的な圏域の経済社会生活基盤、そして、のぞみの一部が中央新幹線に移転することによる、ひかり、こだまの利便性の向上がある。
- 首都直下型地震のリスクを考えたとき、これ以上の首都圏への集積は危険である。交通インフラ、衣食住、労働力、生活環境が充実しており、産学官の連携も可能で、非常に恵まれている地域の強みを生かし、首都機能のバックアップや部分的な機能の移転なども検討が必要である。
- 県内のみを目を向けるのではなく、東京、大阪、ないしは北陸、その隣県との関係など、広いエリアの中で、愛知にどのような可能性があるのかということを考えていく必要がある。
- リニア中央新幹線は、まさに五十年か百年に一度の、我が国の経済構

造を変える、大変大きなインパクトある事業であり、これを最大限に生かしていくことが必要である。

- 東京一極集中の加速がますます懸念され、また、東京－大阪間の通過地点となってしまう危険もあるため、中部国際空港の二本目滑走路を早期に実現するなど、まだまだ不十分な物流、交通のためのインフラ整備が必要である。
- この地域が今後とも持続的な発展をしていくためには、優秀な人材の確保が必要であり、これまで以上に人や情報が集まる魅力的な地域となっていくことを願っている。
- この地域に人を呼び込むためには、自動車産業に加え、航空機産業をはじめとした新しい産業を振興し、雇用の場を作らなければならない。
- この地域は魅力がいまいちであり、文化振興や、住みやすさ、観光といった魅力の創造や発信など、ハードだけでなく、ソフトの面も、もう少し深く考えて取り組んでいく必要がある。
- リニアを、愛知、岐阜、三重、静岡、長野を含めた中部圏全体の発展に向けて検討する良い機会としてほしい。
- 2020年の東京オリンピックに向けて、東京も大阪もインバウンドの強化に取り組んでいる。この地域でも、まず2020年に向けて何に取り組むのか考える必要がある。
- 若い人を呼び込むためには、自動車産業だけではなく、次世代ロボットや、アニメなどのコンテンツ産業に力を入れることが、また、海外から人を呼ぶためには、ホテルや観光施設の不足に取り組むとともに、世界で流行っているイベントの誘致が、非常に重要である。
- 東京、大阪になく、中部だけにしかないものを、この地域に立ち寄る必然性を作っていく必要がある。その際、何をコンテンツ化し、産業誘致をするのかという具体策をしっかりとプランニングしていく必要がある。
- リニアが来ることで変わるものと変わらないものがあるが、名古屋の

土地柄は変わらないものの方が強い。名古屋弁、食、芸をはじめとした文化の「継承」と「活用」、「育成」に努め、変わらない良いものを発表していくような、地元の人意識改革が必要である。

- この地域は、バレエから大正琴まである芸どころだが、まだ知られていないところがたくさんある。また、地芝居の団体が数多く存在するので、もっと活用してはどうか。
- 名古屋は上品であるから、「なごやメシ」ではなく、「なごやごはん」と言うべきである。
- 産業首都としてのステータスを高めるとともに、若い人や女性、訪れる人に感動を与えられるニュートレンドの施設が集まった複合施設の集積やロケ地としての街の魅力の磨き上げなどによる「都市力の強化」が必要である。
- 名古屋駅のスーパーターミナル化や中部国際空港とのアクセス強化、高速道路との接続、また、中部国際空港の二本目滑走路の整備など、「ゲートウェイ機能の整備」が必要である。
- 多言語対応による外国人旅行者の受入体制の整備や情報発信の強化、各種コンベンションやイベントの誘致など、「インバウンドの誘致促進」を積極的に進めてほしい。
- 日本の真ん中にあり、かつ、インフラも含めて交通面の要衝である特性を生かし、首都機能も担える中京大都市圏をイメージしていくことも大事である。

※ この議事概要は、事務局において発言の要旨をとりまとめたものです。